

社協のマーク



社会福祉協議会

尾崎支部だより

No.49

平成24年1月15日発行

各務原市社会福祉協議会

尾崎支部広報委員会

新年のごあいさつ

社会福祉協議会 尾崎支部長 深田 宏一

各務原市社会福祉協議会尾崎支部会員のみなさまに新年のごあいさつを申し上げます。

昨年3月11日の東日本震災で大きな被害が東北地方を中心にもたらされましたが、一刻も早い復興・復旧を願い、今年は良い年になりますよう期待したいと思います。

このような災害体験を受けて多くの方が『安全なまち』の必要性を感じられたのではないのでしょうか。

市社協尾崎支部ではその一つとして、自治会長や今年度から設置された福祉委員を中心に地域福祉に関する交流会を自治会単位で開催していただくよう要請しました。自治会内で災害に弱い立場にある方々(災害時要援護者)の把握、避難の方法や情報カード作成の有無など、災害時の地域福祉活動の取り組むべき課題などを検討してもらいました。

さらに歳末地域福祉座談会では「災害に強い安全な町づくり」及び「災害に対してあなたは？」のテーマで東日本大震災へのボランティア活動の体験談や市危機管理室からのアドバイスなどを参考に災害に対する日ごろの心がけ、緊急時の対処方法などを学びました。

『自分たちの地域は自分たちで守る』という連帯感の意識が、そんな中から芽生えてきたものと信じています。今年も「皆で守る ㊦だんの㊧らしの㊨あわせ」つまり㊦㊧㊨に関心をもち『相互共助』の精神で、各事業活動をより充実させて参りたいと考えています。

皆様の参加やご意見を期待しております。

今年もよろしくお願いいたします。



歳末地域福祉座談会の受付する福祉委員さん



体協との共催事業の豚汁作り



災害に強い安全な町づくり

「夢のある 明るいまちは 福祉から」

おめでとう!おざき「コスモスの里」

ボランティアハウス尾崎『コスモスの里』が満10年を迎えました。

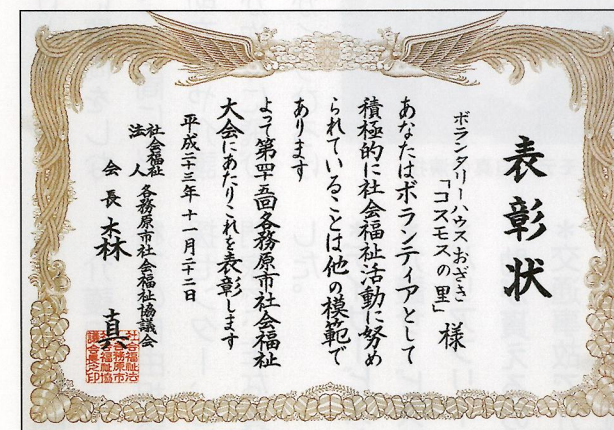
「コスモスの里」の誕生は、平成13年9月ですが、関係者の話によると開所にあたっては、地域住民への啓発・人材の確保・環境の整備等、大変な苦労があったということです。しかし10年間にわたる運営スタッフの努力と、意欲的な利用者の参加によって、今では「コスモスの里のことが、私たち尾崎の自慢」という声が聞かれるくらい、充実したものになってきました。

「コスモスの里」では、毎回、各務原市内外のボランティア団体の出演や、スタッフの企画する内容を組み合わせて活動していますが、何よりのエネルギーは、参加者の笑顔と温かさだそうです。

「コスモスの里」は、地域の高齢者の楽しい交流の場として、これからも大いに活躍が期待されています。



平成13年9月に「コスモスの里」が開所



「ボランティア功労」で表彰 (平成23年)

～あなたも、月1回のボランティアに参加しませんか!～

「コスモスの里」は、毎週木曜日(10時から14時)、ふれあい会館で活動しています。スタッフ(ボランティア)は4つの班に編成され、月1回(各木曜日)を担当します。ぜひ一度、お気軽に、ふれあい会館まで見に来てください。お待ちしております!

「夢のある 明るいまちは 福祉から」

見るとやるでは大違い 『介護何でも相談室(介護予防講習会)』 「百見は実行に如かず」

7月24日(日)、昨年度に引き続き『介護何でも相談室(介護予防講習会)』を開催しました。今回は、「簡単に出来る介護の実際」を体験する一部と、「介護の疑問」を専門家に気軽に尋ねる相談という二部構成で行いました。

◎介護の相互体験◎

介護用ベッドには、そのハイテク機能にびっくりで、組み立て準備の段階から「値段はどれほど?」「このベッドは介護保険でレンタルできる?」「これを使うには何処に申し込んだらいいの?」などと質問が続出しました。介護体験コーナーでは、

- ①寝たきりの人を、ベッドと車椅子の間で移動させる方法
- ②寝たきりの人を、着替え(身支度)させる方法
- ③寝たきりの人の体を拭く方法

ベッドに寝ているモデル(常任理事太田)が本当に半身マヒになってしまったかのようだったので、会場には笑いが溢れ、模範指導が終わると大きな拍手がわきました。その後、参加者が相互に介護する人と介護されるモデルになって



介護ベッドの組み立て



見るのとは大違い 参加者相互に介護実習



ベッドから車イスへ モデル迫真の演技

実習。介助は見ているだけでは大違いで、細かなことが判らずに質問をしなからぬ実習になりました。この間にも、見学している側から、介助方法や介護用品などについての質問が次々に飛び出して、活発な介護実習がくりひろげられました。

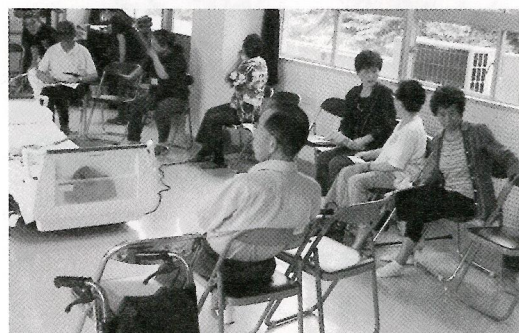
◎介護の疑問で井戸端会議◎

介護相談コーナーは、二ヶ所に分かれての自由相談で、講師は地域包括支援センター、および介護事業者の各専門家で、主な質問は次のようなものでした。

- *デイサービスを利用するには?
- *介護サービスの利用料は?
- *バリアフリーにリフォームする時、補助が貰えるのか?
- *交通事故で介護が必要になった場合、介護保険は適用されるのか?
- *配食サービスを利用するには?
- *オムツやベッドは介護保険の対象?
- *介護認定のしくみは?等々

それぞれについて、講師から丁寧な説明がありました。

このコーナーは、ワイワイガヤガヤと井戸端会議になり、予定時間内では話題が終わらないほどでした。



介護用ベッドを囲んでの相談コーナー

「だいじょうぶ?」と、手をさしのべる その勇気

福祉委員の活動は...

地域福祉事業委員長
大森 房治

今年度より各自治会より選出された福祉委員の方々と、社会福祉協議会尾崎支部が一体となり、今後の尾崎地域の福祉活動のあり方、とりわけ、これから迎える高齢化社会に対する地域コミュニティのあり方などについて、話し合いをしてみました。

昨年三月十一日に発生した東日本大震災は、ある意味で地域の連帯感や災害時の助け合いなど、話し合うよい機会となったかと思えます。

年度初めには、福祉委員の方々とすでに活動されている近隣ケア・シニアクラブの方々や民生・児童委員そして、地域包括支援センターの方々と意見交換を行いました。しかしながら、取り組むべく方向性が定まらないままになっていました。

そこで、自治会連合会や社会福祉協議会尾崎支部が計画している行事に九月十九日の「おさき敬老の集い」、十月九日の「おさきフェス

テバル」、十二月四日の歳末地域福祉座談会」のお手伝いをしました。また福祉委員独自の活動として各自治会において『福祉交流会』を開催していただくように要請しました。

●災害時要援護者とのコミュニケーションのとり方

●一人暮らしの高齢者や、家族がいなくても日中一人となる方々への声かけや安否確認

●自主防災組織と非常時・災害時の具体的な避難方法

などについて話し合っていたところをお願ひしました。その結果は、これからとりまとめて、報告できればと思っています。

福祉委員は、今年度より始まったばかりではありますが、町内の福祉活動(周囲に対する心遣いを発展させ、「共助」の精神を押し進める)において、その中核的存在として期待するものです。



フェスティバルの賞品渡し



歳末地域福祉座談会



敬老の集いの会場づくり



敬老の集いの会場づくり。作業前の打ち合わせ

「だいじょうぶ?」と、手をさしのべる その勇気